

# 巻頭のご挨拶

一般社団法人 北海道林産技術普及協会  
会長 高橋 範行



会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。2026年 令和8年、午年の新春を会員の皆さまとご一緒にお喜び申し上げます。

さて、冒頭から一企業を例にひく話題で恐縮ですが、昨年6月、昭和木材は社屋を旭川市から東川町に移転しました。新社屋は、事務所棟、ショールーム棟そして二つの棟をつなぐ廊下棟からなります。当初、内装材から構造材までを扱う木材会社として、全てを木造建物とすることも検討しましたが、ショールーム棟は構造材を見せる木造、事務所棟は木材内装を見せる鉄骨造としました。使用した樹種や使用箇所などの詳細はご来訪いただくのが一番ですが、ショールーム棟の構造材はカラマツ、トドマツ、事務所棟の内装材や家具・什器はタモ、セン、ナラ、ケヤキ、ウォールナット、レッドオークなどとなっています。

国産材自給率の向上が進められ、令和6年度森林・林業白書では製材用材の国産材率が56%と報告されています。ですが、広葉樹の国産材率は同白書からは読み取れません。家具産地の一つである岐阜県にある産業経済振興センターが公表しているレポートでは、広葉樹製材の自給率として15.4%の試算値が示されていて、オーダーとしては私も似たような感触を持っています。このように、広葉樹製材は未だ外国産材率が高く、外国産材に頼らざるを得ない広葉樹を取り巻く現状が、企業の顔とも言える役員室の内装に外国産（および本州産）広葉樹を選択した理由のひとつとしてあります。もちろん、外国産材に頼る現状を良しとは思っておらず、かつては当社が取り扱う原木の8割は外国産材でしたが、現在は国産材が5割程度にまで増えています。また、最近になって林野庁も国産広葉樹に光をあて始めており、「里山広葉樹の利活用と再生に向けて」をテーマにした里山広葉樹利活用推進チームを立ち上げています、時すでに遅し、と思わないでもありませんが、取り組むのであれば、里山に限らず全国の天然林広葉樹の有効利用も視野に入れ、広葉樹資源の量および質の把握に基づく持続可能な活用方針を早急に出していただきたいと思います。需要のあるうちに、そして広葉樹製材の生産基盤が残っているうちに国産広葉樹を安定供給する仕組みを構築していただきたいと切に願っているところです。

さて、長々と当社の事例および林野庁への期待を述べたのは、これまで未利用だった樹種を活用したり、新たな分野での利用を進めるに際しては、さまざまなデータを得るところから始まる、ということをお伝えしたいからです。協会70周年事業の一つとして林産試験場に「道内広葉樹資源の流通動向調査と製材用途の利用拡大に向けた中径木の材質評価」と題する研究をお願いしたことも、協会事業として「会員企業支援事業」「共同研究等支援事業」を実施していることも、ウッディエイジで技術情報を発信していることも、全ては同じ考えに基づいています。このことは、なにも広葉樹に限ったことではありません。

道木連情報「北海道の新設住宅着工数の動向」に端的に示されているように、木造住宅の着工戸数は依然として厳しい状況が続いています。会員の皆さまには多かれ少なかれ影響を受け、先行きに思いを巡らす時間が多々あるものと想像します。そして、それぞれに手立てを講じているとも思います。かく言う私も同じです。このような状況の中で期待することの一つは、国、道が進めている非住宅建築物の木造化です。

ウッディエイジでは、2025年6月号から大阪市此花区夢洲で開催された「大阪・関西万博」の木造構造物を表紙として取り上げています。たとえば、次のような構造物です。世界最大級の木造建築物としてギネス世界記録に認定された大屋根リング（6月号）。1970年の大阪万博時に植樹されたスギの角材を使用し、年輪や地層を表現した住友館（7月号）。また、記事として、森林認証を取得した滝上町診療所（10月号）、林産試験場の研究成果を生かした森町の木造保育所（11月号）などを掲載してきました。

さらに、協会では4月の講演会で、たびたび非住宅建築物の木造化・木質化につながる話題を取り上げてきました。（株）竹中工務店の小林氏、住友林業（株）の中嶋氏には“耐火火や構造技術”，（株）山脇克彦建築構造設計の山脇氏には“構造デザイン”についてお話をいただきました。そして今春は、越井木材（株）の越井氏に“耐久性”を軸とすることをご講演をお願いしています。建築物の耐久性向上は元より、外構材、土木資材といった建築とは異なる分野への展開を考える際の貴重な示唆が得られることが期待されます。今回も、ご参加いただきやすいようにweb講演会を予定しています。

当協会は今年も林産試験場と企業の架け橋として、木材加工技術の向上とその普及に向けた活動を進めて参ります。皆さまのご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。